

2013年度第37回横浜市ミニバスケットボール連盟

決勝大会

女子決勝 ひかりが丘40 VS 33 川上北

1Q

ひかりが丘のディフェンスは3-2ゾーン、対する川上北はオールコートマンツーマンでゲームスタート。川上北は、ひかりが丘の#4に対してフェイスガードのディフェンスを起用し、ひかりが丘のオフENSEを封じ込める。ひかりが丘は流れをうまく掴めずにいたものの、#4の鋭いドライブなどで得点を重ねる。川上北も#4、#9を中心にオフENSEを展開し、得点を重ねる。ゲーム開始4分で9-6とひかりが丘がリードを広げる。1Q終盤、両チームファウルを上手く誘いながらフリースローによる得点を重ね、12-7とひかりが丘が5点リードで1Q終了。

2Q

ひかりが丘のディフェンスは3-2のゾーン、対する川上北はオールコートマンツーマンでゲームスタート。開始1分、川上北#6が見事なドライブからファウルを誘いバスケットカウントで10-12と点差を縮める。このプレーから流れを持ってきた川上北は続けて#8が0度のジャンプシュートを決め12-12で同点に追いつく。2Q残4分、ひかりが丘は流れを変えるためタイムアウト。タイムアウト直後にひかりが丘は#9がファウルを誘いフリースローで得点を重ねるも、川上北の勢いは止まらない。川上北の#5、#6、#7が落ち着いてオフENSEを展開し、インサイドとアウトサイドをバランスよく攻め得点を重ねる。このクォーターは川上北が見事逆転に成功し2Q 3-12前半終了時15-19で川上北が4点リードで後半を迎える。

3Q

後半も前半と変わらずひかりが丘のディフェンスは3-2のゾーン、対する川上北はオールコートマンツーマンでゲームスタート。後半最初の得点はひかりが丘の#9の

力強いドライブシュートとなった。これで勢いに乗りたいひかりが丘は、素早いローテーションのディフェンスでスティールを狙う。しかし、川上北はそれを上手にかわし、#4の見事なペリメーターからのジャンプシュートで得点を重ねリードを許さない。残3分、ひかりが丘は#4を中心に連続得点を重ね、逆転に成功するも、川上北の#4のドライブ、#6の力強いリバウンドシュートで再び川上北がリードに成功する。一進一退の攻防が続いた3Qは 8-8 3Q終了時23-27で点差変わらず川上北がリードして3Q終了

4Q

4Qもディフェンスは、ひかりが丘は3-2のゾーン、対する川上北はオールコートマンツーマンでゲームスタート。最終クォーター開始30秒、ひかりが丘は早い展開でオフENSEを仕掛け、#5のドライブでファウルを誘いフリースローを得る。冷静にそれを2本沈め、ひかりが丘は2点差まで詰め寄る。残4分、ここで、ひかりが丘は#4から#8へ見事なアシストパスが通り、#8がバスケットカウントを得る。そのフリースローも確実に沈め、ひかりが丘が逆転に成功する。川上北も#4のミドルシュートや、#9のインサイドでの見事なターンシュートなどで加点。しかし、ひかりが丘の勢いは止まらない。スティールから#5がミドルシュートで加点し、残2分 36-33でひかりが丘がリード。その後、一進一退の攻防が続くも両チーム得点が入らず、残50秒で川上北がタイムアウト。川上北は最後の追い上げを見せるも得点できず、逆にひかりが丘は#7、#8のシュートでさらにリードを広げる。試合終了時40-33で終盤に勢いを発揮した、ひかりが丘が見事勝利を収めた。

動画>

<http://www.youtube.com/watch?v=pnHR9qTxLT8>

男子決勝 六ッ川49 VS 28 鶴ヶ峰

1 Q

六ッ川④のジャンプシュートの得点でゲームが動き出す。⑥の1on1、④のパスカットからの速攻等で徐々に鶴ヶ峰との差を広げる展開となる。鶴ヶ峰も④を中心に果敢に六ッ川ゴールを攻めるが、六ッ川のディフェンスに阻まれ中々加点できない。15-6六ッ川のリードで1Q終了。

2 Q

六ッ川はセンター⑧のリバウンド、ポストからのジャンプシュートで鶴ヶ峰ゴールを攻める。鶴ヶ峰も⑧のジャンプシュート、⑥のパスカットからのゴールで応戦し、序盤は互角の展開となる。しかし中盤から六ッ川⑤の1on1、⑦⑨へのアシスト等⑤の活躍で一気に鶴ヶ峰との差を広げる。33-10と六ッ川リードで終了。

3 Q

六ッ川のボールポゼッションから後半が開始される。後半に入ると両チームともディフェンスが機能し中々加点できない展開が続く。六ッ川は⑧のインサイドを中心に④⑬の加点、鶴ヶ峰も④⑤の果敢なゴールアタックで加点をする展開となる。41-16で3Qを終了するも、両チームほぼ互角のゲームとなった

4 Q

3Qにつづき、お互いのディフェンスに阻まれ、お互い得点ができない展開が続く。鶴ヶ峰⑥のドライブからの得点でゲームが動き始め、⑧のインサイドでの連続得点で鶴ヶ峰がこのクォータをリードし始める。六ッ川は開始2分間無得点のままであったが、⑥のジャンプシュートを皮切りに④⑩の得点で応戦し始める。残り1分から鶴ヶ峰⑥のインサイドからの連続得点で鶴ヶ峰がこのクォータをリードして終了するが、六ッ川の前半のリードが生き、49-28で六ッ川が決勝戦を制した。

動画>

<http://www.youtube.com/watch?v=pnHR9qTxLT8>

女子準決勝 川上北38 VS 32 大正

1Q

川上北は⑩のフリースローで先制。対する大正も④のフリースローで同点に持ち込む。大正は⑥のミドル、リバウンドシュートで差を広げるが川上北も⑨のリバウンドシュートなどでついて行く。しかし、大正は④を起点にジャンプシュートや速攻を次々と決め、リズムをつかんでいく。川上北は、4ファウルで得たフリースローを決めつなぐが、15-8大正リードで1クォーターを終了。

2Q

大正はフリースローで差を広げるも川上北はプレスや変則ディフェンスを使い、大正に気持ちよくオフェンスをさせない。川上北は、⑥⑧のミドルなど連増得点をあげ、残り1分30秒、ついに1点差に詰め寄る。そして残り1分、川上北⑤のフリースローで逆転。18-17、川上北リードで後半へ。

3Q

大正、川上北共にマンツーマンでスタート。川上北は④のドライブ、⑥のミドルで差を広げる。大正は⑥のドライブがファウルとなりフリースローを決め、19-22となる。その後、両チームディフェンスを頑張り、3点差のまま残り、45秒川上北④がジャンプシュートを決め、28-23の5点差に。残り4秒、大正④がスチールからそのままレイアップを決め、28-25。3点差のまま最終Qへ

4Q

川上北は⑧のフリースローで差を広げる。⑦の速攻など連続得点で34-25とこの試合最大の9点差となる。ここで大正は⑤によりやくエンジンが掛かり始め、バスカン、ドライブと連続してきめ差を詰める。しかし、川上北は、エンドからのセットプレイで⑦のシュートが決まり36-30となる。残り2分12秒、大正はタイムアウトを取る。直後、大正は⑪のミドルが決まり4点差に詰め寄るが最後は川上北がゲームをコントロールし38-32で川上北が勝利した。



女子準決勝 大原北26 VS 33ひかりが丘

1Q

大原北マンツーマン・ひかりが丘は3-2ゾーンでスタート。両チームとも相手ディフェンスに苦しみなかなか得点できない。開始1分半ノーゴールだったが大原北⑥がミドル⑤のバスケットカウント、フリースローも決めリードする。対するひかりが丘は⑧にボールを集め始め⑧が連続得点で追いかける。大原北の速い寄りに苦戦するひかりが丘に対して大原北は速いパス回しから得点し引き離す。11-5で大原北リード。

2Q

大原北3-2ゾーン・ひかりが丘マンツーマンでスタート。リードしている大原北は⑨のミドル・⑦のフリースローで突き放す。対するひかりが丘は大原北のゾーンをアウトサイドから崩そうとするがシュートがなかなかはいらずドライブに対しては大原北⑦が連続ブロックと得点できない。残り3分34秒ひかりが丘タイムアウト。タイムアウト後ひかりが丘⑨がシュートを決めこのクォーター初得点、その後お互いに得点を加え16-11で前半終了。

3Q

両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。大原北⑤のジャンプシュートが決まりリードを広げる。しかしひかりが丘は後半になり積極的にドライブを仕掛け始め④が連続得点で詰め寄る。大原北⑤⑥が連続得点でリードを広げようとするもひかりが丘⑤のバスケットカウントですぐさま追いつく。またディフェンスの動きも良くなりひかりが丘⑩のスティール直後大原北がアンスポをとられこのフリースローを決め22-24とこのクォーターひかりが丘が逆転で最終クォーターへ。

4Q

ナイスディフェンスの前にお互いなかなか得点できない。ひかりが丘⑨がフリースロー、④のドライブから⑩への合わせで連続得点。ここで大原北タイムアウト。タイムアウト直後大原北⑥ドライブで得点するがすぐさまひかり⑤が決め返し流れを渡さない。残り58秒でひかりが丘タイムアウト・⑩から⑧へメンバーチェンジ。このクォーター9-4としたひかりが丘が決勝進出を決めた。26-33



男子準決勝 鶴ヶ峰 49 VS 36 駒岡

1Q

ティップオフから、鶴ヶ峰ボールでスタート、DFは両チーム双方ハーフコートマンツーマン。

先制点は鶴ヶ峰⑨の速攻、続けざまに④が果敢にドライブするがここは駒岡のシェルディフェンスによりシャットされる。しかし鶴ヶ峰の攻撃は続く⑤ミドルシュート、④⇒⑨ゴール下、④ミドルシュートと4連続ゴールを決める。駒岡は⑥中心に攻めを組み立てるが思うようにボールが回らない。そんな中、駒岡④のドライブからのフローターで初ゴールを決めたが、すかさず鶴ヶ峰⑤のカットインで取り返す。3分経過時にリバウンド争いで鶴ヶ峰④が負傷、選手交代となる。鶴ヶ峰④は駒岡⑥にマッチアップしていたため、交代後のミスマッチをつき、駒岡は⑥中心にリバウンドシュート、フラッシュからのランプレイ、ローポストからパワードライブ、リバウンドシュートと4連続ゴールで同点に追いついたところで1Q終了、10-10同点

2Q

駒岡ボールスタート、DFは両チーム1Qと変わらず。

両者様子をうかがいながらスタート。先制点は鶴ヶ峰⑧カットイン、ファールをもらいフリースロー1本成功、続いて鶴ヶ峰⑥のリバウンドからゴール下。鶴ヶ峰はつき離しにかかるが、駒岡⑨⇒⑫ゴール下、⑨カットインからのレイアップでそれぞれフリースロー1本成功。一方鶴ヶ峰は⑧ミドルシュートで応戦。2分経過した時点で駒岡タイムアウト。

タイムアウト後、駒岡⑧パスカットから速攻で得点した後、両チームともマンツーマンを攻めきれずミドルシュートの応戦が続くが決まらない。残り2分を切った所で鶴ヶ峰⑥パスカットから速攻、駒岡⑬1対1からカットインとゲームが動き始めた。鶴ヶ峰はバックカットによる⑧⇒⑥、⑥⇒⑦で得点。駒岡は⑧のハイポストからのドライブシュートがきまり、21-18鶴ヶ峰リードで2Q終了。

3Q

鶴ヶ峰ボールスタート、DFは両チームともカウントインオールコートマンツーマン。

後半先制したのは鶴ヶ峰④ローポストからゴール下。駒岡も④1対1からカットイン、フリースロー1本成功、続けて⑨ミドルシュートと応戦。鶴ヶ峰④、⑥の2対2のボールスクリーンからゴール下、続けて④のミドルシュートとつき離す。駒岡は④の1対1、⑥、⑨のミドルシュート。鶴ヶ峰は

⑧のミドルシュート、④パスカットから、⑤、⑧への速攻により得点を重ねていく。鶴ヶ峰は④がゲームコントロール、駒岡はパスバスケットで応戦するが、鶴ヶ峰がリードを広げ、35-26鶴ヶ峰リードで3Q終了

4Q

駒岡ボールスタート、DFは両チーム変わらず。駒岡は⑧中心に攻撃を組み立てるハイポストからドライブ、フリースロー1本成功、リバウンドからゴール下バスケンフリースローも決め点差を詰める。しかし鶴ヶ峰は要所でみせる④の激しいダブルチームによりパスカットから速攻/ミドルシュート、⑥の速攻より3連続ゴールし引き離す。

流れを切りたく3分経過時43-31で駒岡タイムアウト。しかしタイムアウト後も鶴ヶ峰の攻撃が続く、⑥カットイン、④のパスカットから⑤速攻、⑥リバウンドシュートと流れを切らさない。駒岡は⑧、⑨の1対1からのカットインにより、連続ゴールを決め追い上げムードになるが、ここでタイムアップ、49-36で鶴ヶ峰が勝利し決勝に進んだ。



男子準決勝 榎が丘 VS 六ッ川

1Q

六ッ川ボールで試合はスタート。
六ッ川④がシュートをするも外れ、榎が丘も④がシュートを放つがこちらも外れる。
先制点は榎が丘⑨のフリースロー。
ここから榎が丘はゾーンプレスを仕掛けるが、六ッ川は冷静にボールを運び、⑥のジャンプシュートを返す。
榎が丘は⑨、⑪がリバウンドに奮闘し、フリースローで得点を追加する。
六ッ川は速攻を中心に試合を展開したが、リバウンドを取れず、リズムに乗り切れなかった。
榎が丘17-15六ッ川

2Q

六ッ川はディフェンスを変更し、榎が丘のガードを自由にさせない。
このディフェンスが成功し、六ッ川は連続得点。
六ッ川⑨のバスケットカウントで榎が丘17-23六ッ川となったところで榎が丘のタイムアウト。
六ッ川はディフェンスだけではなく、⑧の高さを有効に使い、オフェンスも有利に進める。
榎が丘は終了間際にシュートに成功するも、大量リードを奪われてしまった。
榎が丘19-30六ッ川

3Q

後半の先制点は六ッ川⑧、榎が丘もリバウンドから⑨のシュートで引き離されない。
六ッ川がシュートを決めれば、榎が丘も返し、得点の取り合いになる。
榎が丘はゾーンプレスをしかけるも六ッ川は高さを有効に使い、なかなか点差を縮めることが出来ない。
一進一退の攻防が続く、榎が丘がわずかに点差を縮め残すは最終クォーターだけとなった。
榎が丘33-42六ッ川

4Q

開始早々六ッ川の3連続得点。
榎が丘はタイムアウトを使い、流れを止める。
タイムアウト明け、榎が丘はシュートを決め、ディフェンスを変更する。
しかし、六ッ川は落ち着いて対応する。
榎が丘は最後まであきらめずに質の高いプレーを披露する。
六ッ川も負けじと質の高いプレーを返す。
最後は六ッ川⑧がゴール下シュートを決め、素晴らしい試合を締めくくった。
榎が丘38-56六ッ川

